

# 自然との共生へ

～過去から未来へつなぐバトン～  
Living in harmony with nature

7.19|水|—7.30|日|

海なし県「ながの」から海ごみを考えよう



昨年に引き続き、(公財)八十二文化財団主催による企画展に参加しました。当協会の今年のテーマは「海なし県「ながの」から海ごみを考えよう」。海ごみ対策のビデオ上映、海洋ごみのパネル展示 [写真上]、「2050 ゼロカーボン」関連教材展示を行ったほか、開催期間中には、デジタル地球儀「触れる地球」の体験会 [写真左]、ロビーでのワークショップ「CHANGE FOR THE BLUE カードゲーム」体験会 [写真右下] が行われました。また、県内小学5・6年生を対象に、信州とイカの深い関係を調査し、今、日本海で起きている海の変化を学習するために企画されたプロジェクト「信州イカ調査隊」の隊員も訪れ、デジタル地球儀に映し出される様々な地球の問題を学習しました [写真左下]。



このカードを実行したら、海ごみ減らせそうですね。



## 推進員「ふらっと」インタビュー ◆ 市澤 和宏 さん (豊丘村)



推進員の方々にふらっとインタビューする企画です。

今回は企画展にお越しいただいた市澤和宏さんに推進員活動への思いを伺いました。

—研修会にご参加いただきありがとうございます。企画展はいかがでしたか？

**市澤推進員(以下市)**：どの展示も興味深く拝見しましたが、「触れる地球」は特に素晴らしいコンテンツでした。環境問題に興味を持っていただくにはきっかけ作りが非常に大事で、最適なツールだと感じました。南信でも積極的にPRしていただきたいと思います。

—今回初めて推進員に応募していただきましたが、きっかけを教えてください。

**市**：私は令和2年10月に豊丘村の公民館長に就任以来、SDGs 推進活動を行ってきました。村の環境課と連携し SDGs を広める取り組みも行っています。そのご縁があり、今回の応募に村から推薦のお話をいただき、公民館長の業務と両立できる範囲でなら、ということでお引き受けしました。

—活動を進めていく上で心がけておられることはありますか？

**市**：温暖化をはじめとした環境問題への対策は、知識や意欲のある方だけでなく、より多くの方に取り組んでいただくことが大事だと思います。そのためには、「横のつながり」を強くして情報が行き渡るようにしたり、今まで活動に参加されていなかった方が最初の一步を踏み出せるように、SDGs や ESD を学ぶ機会を提供したり、イベント等を通じて“後押し”をしていきたいと考えています。

—今回は「海ごみ」に焦点を当てた展示もありましたが、取り組んでいることはありますか？

**市**：長野県は海から遠いのでなかなかイメージしづらいのですが、子どもたちには「村を流れている天竜川は海までつながっているんだよ」という話をよくします。そして、大人子ども問わず、道端や畑でマルチの切れ端やプラスチックごみを見つけたときには拾おうと呼びかけています。